

畑で夏野菜を育てる ①土に触れた、野菜調べ、苗植え

活動

- ・夏野菜調べ、苗植え

4歳児クラス16名60分

○活動内容

畑で育つ夏野菜を調べ、実際に苗を植え水やりを行った。

準備したもの

畑、スコップ、図鑑

○保育者の問いかけやアプローチ

- ・畑ができた後で土に触れられる活動を取り入れ畑への興味を持てるようにしていった。
- ・触り心地「ふわふわ」「水が入ると固まる」と土の感触を言葉にしていた。たくさんの幼虫や虫が見つかりいつの間にか虫探しになってしまう様子が見られた。
- ・危険生物が好きな子どもたちは図鑑をよく見て調べるが多かったため、植物や苗の図鑑や絵本を用意し、子どもたちの手に取れるところに置いた。
- ・図鑑を見て一緒に調べ、夏野菜を知っていけるようにし、グループタイムで自分たちが育ててみたいもののアンケートをとった。またそのときに保護者と一緒に育て方を調べていけるよう声をかけた。
- ・子どもたちとの多数決でトマト・ナス・とうもろこしを育てることに決まった。「トマトって大きいのと小さいのある」「大きいのが好きだけど小さいのは食べられない」「小さいのだったら食べられる」「どっちも育てることできる？」と複数の種類のトマトを育てたい気持ちがあったので苗を2種類用意した。
- ・園周辺にある苗屋さんに子どもたちと買いにいったものの売り切れていたため苗は保育者が用意した。苗の観察では事前調べのこともあり、葉っぱを見ただけで何の野菜か分かっていた。「茄子は野菜がむらさきだから葉っぱのときにはもう茄子の色をしてるんだよね」「においをかぐとその野菜のにおいがする」などと言っていた。
- ・水やり・・・水をあげて育つことを喜んでいて。暑さで戸外に出られない日が多く、毎日数人ずつしか水やりに行くことができずにいたが、水やりに行った子がクラスの友達に成長具合を報告していた。
- ・大きいトマトが育ってきてあと少しで収穫というところで地面に落ちてしまった。食べることを、成長を見守ることを楽しんでいたので「あ～あ」と残念そうにする子どもたち。「なんで落ちちゃったんだろうね？」とグループタイムで聞いてみると「カラスがつついたのかも」「ほらそこにカラスいるでしょ？」とちょうど窓から見えたカラスを指さしている子がいた。その子が言い出したことがきっかけで「本当だ」「絶対カラスだ」「次は絶対食べられたくない」と言っていた子どもたちだった。

○振り返り

初めて畑を使って野菜を育てられる環境になり、子どもたちも保育者も楽しみに活動に取り組むことができた。図鑑を使い、少人数の子どもたちと一緒にどんな育て方がいいのか、夏にはどんな野菜が育てやすいのかを調べた。調べるのが得意な子は自分で調べてグループタイムの時にみんなに伝える、苦手な子は友だちから聞いた話で知るといった流れができて個人に合わせた学びの環境が作れたと思う。



畑で夏野菜を育てる ②土に触れた！野菜調べと苗植え

活動

4歳児クラス16名60分

- ・野菜調べ、収穫

○活動内容

育てていく中で出た疑問をクラスで調べていった。

準備したもの

畑、スコップ、図鑑

○保育者の問いかけやアプローチ

- ・大きいトマトが育ってきてあと少しで収穫というところで地面に落ちてしまった。食べることに、成長を見守ることを楽しんでいたもので「あ～あ」と残念そうにする子どもたち。

「なんで落ちちゃったんだろうね？」とグループタイムで聞いてみると「カラスがつついたのかも」「ほらそこにカラスいるでしょ？」とちょうど窓から見えたカラスを指さしている子がいた。その子が言い出したことがきっかけで「本当だ」「絶対カラスだ」「次は絶対食べられたくない」と言っていた子どもたちだった。

- ・「どうやったらカラスから野菜を守ることができるかな？」という保育者からの投げかけについて「ネットがあればいい」「お薬とか塗るのはどうかな」といった声があがった。すぐに答えを決めず、保護者と一緒に考える時間を設けた。翌日確認すると「カラス除けていうものがあるらしい」「かかしも良いって聞いた」などの意見が出てきた。そこですぐに作れるものが「キラキラしたカラス除け」だった。

- ・収穫・・・育ててきた野菜をすべて収穫、実際に食べることができた。とうもろこしはうまく育たなくて、粒がつぶれてしまっていた。理由を考えると「暑すぎたのかも、(日よけの)傘があったらよかったかな」という姿もあったが収穫シーズンが終わったため実際やってみることはできなかった。

トマトを観察していると「これって種だよ」「種ってことは育てたらまた沢山トマトができるってこと？」「やってみよう」との声があがったので育ててみることにした。トマトの中身を触るのは初めてな子どもも多く、ぐにゃぐにゃの感触を面白がっていた。残念ながら発芽はせずに終わってしまった。



○振り返り

日の当たりかたによっても成長の速度や実り方も異なったので子どもたちが自発的に気づく前にアプローチをかけられても良かったのかなと思う。

育てていくなかでできた疑問は子どもたちと一緒に話し合い、必要であれば保護者も巻き込みながら考えていくことができてよかった。

自分たちで育てたことでその野菜への興味や、苦手でも1回食べてみよう！という姿もあったのでよかった。

畑で夏野菜を育てる ③野菜を育てたその後

4歳児クラス16名60分

活動

生活発表会で子どもたちとやりたいことを考え行く中で劇の背景として畑の活動が表現活動へとつながった

準備したもの

廃材

○活動内容

廃材を使い、畑で育てた野菜や、かかしなどを表現する

○保育者の問いかけやアプローチ

11月上旬ごろ、発表会の話を子どもたちとした。その前に保育者が誕生会の出し物として「大きなカブ」のリメイク劇をやっていたこともあり「自分たちもおおきなカブの劇をやりたい」という声があがった。大きなカブの絵本をもとにどんな道具や衣装、背景が必要か聞き進めていった。

○子どもの様子

大きなカブの劇のために必要なものを話し合っている中で、子どもたちから「畑の景色が必要」「畑ってなにがあったか思い出せる！」「とうもろこしと茄子とトマト育てたよね」と夏の思い出話をしながらアイデアが出てきた。当時の写真を見返しながら作っている時に、「そういえばトマトがカラスに食べられちゃったよね」「そのときカラスの苦手なもの、カラス除け以外にかかしがあったじゃん！」「作ってみたい」と子どもたちの中から自然と出てきた。そこでかかしを手作りし、発表会の背景として使うことになった。

○振り返り

子どもたちが経験してきたことから、思い出して子どもたちなりのイメージをもって生活発表会の中で表現することができ、良いつながりに感じた。

保育者からの発信だけでなく子どもたちのほうから主体的に「こうしてみたい」「こうだったよね」とやりたいことや表現したいことがでてきて、子どもたちのイメージしているものを形にするため、友だち同士でたのしみながら進めることができて形にとらわれず、4

